

主 題：神の福音 2

聖書箇所：ローマ人への手紙 1章1－7節

私たち信仰者は神からすばらしい恵みをいただいた者です。自らの罪ゆえに滅んで当然の私たちが、神の恵みによって罪赦されこの救いにあずかったのです。サタンに仕えて来たサタンのしもべが神の恵みによって神のしもべとなったのです。このような大きな恵み、祝福を私たちは神からいただきました。パウロが確かに言ったように「**パウロ、キリスト・イエスのしもべ、使徒として召され、神の福音のために選び分けられた**」と、この証は真実であり、そして、この証こそ恵みによって救われた私たち一人ひとりの証でもあるのです。前回から私たちはパウロの自己紹介を見えています。パウロが自分自身について述べた三つのことを見ているのです。今日は残った二つのことを見て行きますが、その前に、最初に私たちが見たことを思い出して見ましょう。

☆パウロの自己紹介

1. キリスト・イエスのしもべ

パウロはこう言いました。「**パウロ、キリスト・イエスのしもべ、**」であると。パウロはここでイエス・キリストと自分との個人的な関係について教えるのです。私は神の所有とされた、私の所有者は神である、私の主人はこの主であると、そのように語っていました。私のような罪深い者、罪人のかしらであり、最も醜い罪人を代価をもって買い取ってくださった、この主が私の主であり、この方のためにだけ私は生き、喜んでこの方に仕えて行こうと、それがパウロの願いであったことはみことばが明らかに記していることです。「キリストのしもべ」であるとパウロは言いました。すなわち、キリストの奴隷であると私たちは見ました。ですから、パウロが望んでいたことはただ一つ、それはこの主に従順に従って行こう、たとえ、この主からほめられることがなかったとしても私は喜んで進んでこの方に従って行こうと、そのような思いをもって彼は主に従い続けたのです。彼のそのような生き方の根底にあった動機は、この救い主なる神への愛であり、心からなる感謝でした。キリスト・イエスのしもべとパウロは自らのことを呼ぶのですが、彼はイエス・キリストと言わずにキリスト・イエスと言いました。この「**キリスト・イエス**」という言い方は新約聖書の中に95回出て来ます。「イエス・キリスト」という言い方は新約聖書の中に135回も出て来ます。その意味にほとんど違いはありません。でも、「**キリスト・イエス**」と言ったときには「**キリスト**」を強調します。この1章を見ても、パウロは最初の1節では「**キリスト・イエス**」と書いていながら、4節では「**イエス・キリスト**」と言い、6節、7節、8節でも「**イエス・キリスト**」と呼んでいます。この冒頭でパウロが「**キリスト・イエス**」と呼んだことは、この後彼が説明する福音というすばらしい神からの救いのメッセージを簡潔に述べているのです。つまり、彼はこの「**キリスト**」を強調することによって、罪の赦し、救いというのは救い主によるものであると言うのです。救い主、すなわち、ギリシャ語では「**キリスト**」であり、ヘブライ語では「**メシヤ**」です。この救い主によって救いは与えられるのです。そして、このイエス・キリストこそが人類待望の救世主、救い主であるということを彼は最初に教えようとするのです。それが福音のメッセージです。そして、それがこのローマ書を通してパウロが教え続けて行くことです。

この福音のメッセージの簡潔な要約というものを私たちは最初に見るのですが、同時に、パウロはこの福音のメッセージを自分の頭の中でただ理解していたというのではなく、個人的に自分の中に受け入れていた、それを本当に信じていたということをこのみことばは私たちに教えているのです。なぜなら、自分のものになっていたから、彼は自分のことを「**キリストのしもべ**」と呼んだのです。そのように個人的に主、救い主と自分との間に関係が成立していたから、だから、私はこの方の持ち物だと言えたのです。彼自身が語ったメッセージを私たちが思い出すとき、そのことを知ることができます。パウロが、そのときはまだサウロと呼んでいましたが、イエス・キリストを信じる場面が「**使徒の働き**」9章に出て来ます。復活のイエス・キリストに出会ったサウロ、彼はその後、このイエス・キリストを伝える者になって行くのですが、9：22にこのように記されています。「**しかしサウロはますます力を増し、イエスがキリストであることを証明して、ダマスコに住むユダヤ人々をうろたえさせた。**」と、パウロ自身が自分はキリストのしもべ、奴隷だと言って、そのようにキリストと個人的な関係をもっていただけでなく、彼自身が最初に語ったメッセージはこのイエスが待望していた救世主、キリストである、救い主であるということを実際に語っているのです。彼がだれかから聞いてそのように伝えていたというのではなく、彼自身がそのことを心から受け入れて、この救いにあずかっていたことが明らかです。パウロはそれまでは一生懸命律法を守ることによって、自分の行ないによって救いにあずかるのだと信じていたのですが、

パウロのこの告白、メッセージを聞くときに、そのことにはいっさい触れていません。つまり、彼が言いたいことは、救いは自らの努力やある人間の教えを信奉することによって得ることは決してない、ただ救い主イエス・キリストを信じることによって得ることができるのだということを明確に伝えるのです。私はこのイエス・キリストを信じ救いを個人的に自分のものとしたのだ、ゆえに、私はこの方に仕える「キリスト・イエスの奴隷である」と言うのです。

2. 使徒として召された者

私は「**使徒として召された**」のだとパウロは自分のことを説明しています。この「召される」ということばには二つの意味があります。(1) 神が働いて罪人を救いへと導いて行く、救いのことです。(2) 神が人をご自分の特別な働きに就かせる召しです。たとえば、大祭司の職に就かせるとか、宣教の働きに就かせるという、そのような神の特別な働きに就かせるという意味で使われるのです。ある神学者はこのように言っています。「いのち、また、救いへの神のあわれみ深い招きをこのことばは意味する。また、それは同時に、信仰、従順、奉仕への招きでもある。」と。今説明した通りです。特別な働きに神が召してくださる、その意味です。明らかなことは、この1節でパウロが使っているこの「召し」は2番目の意味です。神によって私にはある特別な使命が与えられている、特別な務めに私は召されたと、パウロはそのことをここで語っているのです。私は使徒として召されたとパウロは言います。この「使徒」ということばは聖書の中を見て行くと、いろいろな人々に対してこの呼び方がなされています。私たちが「使徒」と聞くと、先ず最初に12使徒が浮かびます。でも、12使徒に含まれていないあのバルナバ、アポロ、エパフロデト、シルワノ、テモテも使徒と呼ばれています。なぜでしょう？実はこの「使徒」ということばは、「～から」と「派遣された、遣わされた」という二つのことばから成り立っているからです。ですから、「使徒」とは「遣わされた人、メッセンジャー」という意味をもったことばなのです。ある人はこれを宣教師と訳します。カルビン神学校の教授だったウイリアム・ヘンドリクソンはこのことばに関して「最も広い意味から言えば、このことばは福音を宣教する人、霊的な働きのために遣わされた人、救いのメッセージを伝える人、遣わした人の代理として働く人である」とそのように説明しています。使徒の働き14章にバルナバについてこのように記されています。ルステラでの出来事です。8節から、奇蹟を行なったパウロたちに対して群衆はどのような態度で彼らを迎えたのでしょうか？11節に「…**神々が人間の姿をとって、私たちのところにお下りになったのだ。**」と言った。」と、そのようにパウロとバルナバを崇拜しようとしします。12節「**そして、バルナバをゼウスと呼び、パウロがおもに話す人であったので、パウロをヘルメスと呼んだ。：13**すると、町の門の前にあるゼウス神殿の祭司は、雄牛数頭と花飾りを門の前に携えて来て、群衆といっしょに、いけにえをささげようとした。：14 これを聞いた使徒たち、バルナバとパウロは、衣を裂いて、群衆の中に駆け込み、叫びながら、」と、ここに「**使徒たち、バルナバとパウロは**」とあります。バルナバは12使徒に選ばれていません。でも、ここにあるように「**使徒たち**」と呼ばれているのです。ですから、使徒というのは「遣わされた者であり、メッセンジャー」です。パウロがここで指しているのは、イエス・キリストによって特別に召された者たち、ユダに代わってマッテヤが後任になりましたが、その12人とパウロを加えた13人の使徒のことです。パウロが言いたいことは、そのようなメッセンジャーというよりも特別な使徒職というものです。「**使徒として召された**」とパウロは言っていますが、それはつまり、自分が使徒として選ばれたことは自分の願いや思い込みではなく、神ご自身のわざであるということを明確に伝えているのです。この選びの主体性がどこにあるのか、それは神にあるのだということをパウロはここで明らかにしているのです。このことはこのローマ1：1だけでなく、1コリント1：1やガラテヤ1：1でもパウロは同じように伝えています。1コリント1：1には「**神のみこころによってキリスト・イエスの使徒として召されたパウロと**」とあります。自分がキリスト・イエスの使徒として召されたのは神のみわざである、神のみこころであると言うのです。ガラテヤ1：1では「**使徒となったパウロ——私が使徒となったのは、人間から出たことでなく、また人間の手を通したことでなく、イエス・キリストと、キリストを死者の中からよみがえらせた父なる神によったのです。——**」とあり、1コリントでは「**召された**」ということばが使われており、ガラテヤでは使われていません。しかし、ガラテヤの中では文脈を見るとパウロが言いたいことが読み取れます。どちらの箇所を見ても、パウロが神によって「特別な使徒」に選ばれた、それは私の個人的な働きではないということを明らかにしようとしているのです。12使徒と呼ばれる特別な使徒に選ばれるためには、イエス・キリストから直接そのような働き、召しを受けることが必要であるし、当然、イエス・キリストの働き、イエス・キリストのことば、特に、イエス・キリストの復活を直接的に目撃していることが必要でした。ですから、今、この時代において使徒がいないのはそのためです。そのことを目撃した人はいないからです。

確かに、日本語の聖書では順序が「**神の福音のために**」から始まります。でも、原語ではすでに話しているように「**キリストのしもべ**」があつて、その次に「**使徒**」ということばが出て来るのです。このような並べ方に敢えてパウロがしたことによって、パウロがどのような人物であったかをうかがい知るこ

とができます。ある人は自分がこのような特別なすごい務めを神からいただいているなら、それを自慢したかもしれません。しかし、パウロは私は「キリストの奴隷」だと言います。私たちと同じ、神の恵みによって救われた者に過ぎないと、そのことを話した後で彼は、でも、私はその神によって特別な務めに召されたのだと言います。パウロの謙虚さの現われです。

さて、「神の召し」ということを私たちは見ているのですが、使徒の時代が終わった後も神はある人々を特別な働きに召され続けておられます。エペソ 4 : 11にはこのようにみことばが教えています。「**こうして、キリストご自身が、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を伝道者、ある人を牧師また教師として、お立てになったのです。**」、神はすべての信仰者、イエス・キリストを信じて救いにあずかったあなたを神ご自身の栄光と、この世に対する宣教と、そして、あなたが属しておられる教会の教化のためにお用いになります。神の恵みによって救われたあなたを神はお用いになるのです。神の栄光のために、宣教伝道のために、そして、教会の一人ひとりの兄弟姉妹が成長するために…。だから、救われたあなたには特別な霊的な賜物が備えられているのです。救われたときに神はあなたにそれを授けてくださったのです。そして、神のこの救いを喜んでいる人は間違いなく働き人です。なぜなら、感謝して主に仕えて行きたい、何か主のために行きたいと、そのように神はあなたのうちに働かれるからです。パウロはここで、その中でも特別に神はある人を召される、たとえば、牧師、宣教師などと言っています。私たちが注意しなければいけないことは、召されていない働きに就くことです。人々の前で話をするということについてもその働きに関心をもつ人はたくさんいます。でも、それが神が召してくださった働きでないなら、神はお喜びにはなりません。実は、今の時代だけではありません。旧約の時代から、神が召していないのにそのような働きをした人たちがいたのです。エレミヤ 23 : 21でそのようなことを教えています。

「わたしはこのような預言者たちを遣わさなかったのに、彼らは走り続け、わたしは彼らに語らなかったのに、彼らは預言している。」と。召されていないのにそのような働きをしていた人がいたのです。つまり、言いたいことは、一人ひとりの責任は神の召しに従うということです。私はあのような働きに関心があると、言っても、みことばが私たちに教えることは、私たち一人ひとりがより神に用いられる者、より神のお役に立つ者、より霊的に成長した者になって行くことです。ですから、長老になりたいとか、執事になりたいと願うことは正しいことです。なぜなら、そういう人たちは霊的に成長した人と皆が認めるからです。しかし、だからと言って、皆が牧師でもないし宣教師でもありません。神はある人を召されるのです。皆さんも神の恵みによって救われたのなら、あなたには素晴らしい働きが備えられているのです。それを為すときに私たちは喜びをもち、満足し、神に用いられるのです。アメリカ・フィラデルフィアのテンス長老教会のバーンハウス牧師はこんなことを話されたことがあります。彼の友人で年輩の黒人牧師のことです。その教会に、若くてどちらかといえば自信家でうぬぼれの説教者がやって来て彼のそのメッセージの後、この老牧師は彼にこのように質問したと言います。「あなたは主によって遣わされたのですか？それともただ自分で出て行っただけですか？」と。考えなければいけません。本当に神が召して下さっているのかどうかを。なぜなら、私たちの働きの中で、いろいろな問題の中で自らを奮い立たせて行くのは神からの召命です。それが支えになり励ましになって働きを継続して行くのです。パウロは使徒として大変な生活をしました。大変な苦しみを経験しました。しかし、彼の中にははっきりとした召命感がありました。神は私を使徒として召して下さったと、そのことを彼は証するのです。そして、非常に興味深いことは、神が召したことに對してパウロがどのような応答をしたのかということです。見て行きましょう。使徒 9 章をご覧ください。当時、サウロと呼ばれていたパウロは、ますます多くのクリスチャンたちを迫害しようとしてダマスコに向かっていたのですが、その途中で復活したイエス・キリストに出会ったということがここに記されています。このダマスコにはアナニヤという一人の弟子がいました。主が彼に対してサウロに会いなさいという助言を与えます。アナニヤは言います。「あの人はどんなに酷い迫害を私たち兄弟姉妹にしているのか、私はそのことを聞いている」と。そのとき、主はこのように言われました。9 : 15 **「行きなさい。あの人はわたしの名を、異邦人、王たち、イスラエルの子孫の前に運ぶ、わたしの選びの器です。」**と。パウロはどこかでこのことを聞きます。ですから、後に自分自身の弁明をするときに、パウロはそのことに触れています。使徒 22 : 14-15、エルサレムにおいて群衆の前でパウロは自分を弁明するのですが、そのとき、アナニヤという人が来てこのように言ったとパウロが告げています。22 : 14-15 **「…『私たちの先祖の神は、あなたにみこころを知らせ、義なる方を見させ、その方の口から御声を聞かせようとお定めになったのです。:15 あなたはその方のために、すべての人に対して、あなたの見たこと、聞いたことの証人とされるのですから。』**と、ある働きのためにあなたを用いるのだと、証のためにあなたを用いるのだということをアナニヤからパウロは聞いているのです。26 章を見ると、今度はカイザリヤにやって来たアグリッパ王の前でパウロは弁明するのです。16-18 節 **「起き上がって、自分の足で立ちなさい。わたしがあなたに現われたのは、あなたが見たこと、また、これから後わたしがあなたに現われて示そうとすることについて、あなたを奉仕者、また証人に任命するためである。」**

と、このようにパウロ自身が復活の主に出会ったときのことを証しています。「17 わたしは、この民と異邦人との中からあなたを救い出し、彼らのところに遣わす。18 それは彼らの目を開いて、暗やみから光に、サタンの支配から神に立ち返らせ、わたしを信じる信仰によって、彼らに罪の赦しを得させ、聖なるものとされた人々の中であって御国を受け継がせるためである。』、パウロはこうして自分自身に起こったこと、自分と神との間で為されたこと、語られたことをアグリッパ王の前で弁明するのです。その後、19節「**こういうわけで、アグリッパ王よ、私は、この天からの啓示にそむかず、**」と述べています。つまり、パウロは神が自分を召してくださったということを確認したとき、彼はそれに従順に従ったのです。その召しを受け入れたのです。旧約聖書を見ても、神はある人たちをご自身の特別な働きのために召されています。そのときに、召された人たちは皆その召しに従うのです。たとえば、アブラハム、創世記12：1「**あなたは、あなたの生まれ故郷、あなたの父の家を出て、わたしが示す地へ行きなさい。**」との召しに対して彼は従って出て行きました。モーセはどうでしょう？出3：4「**主は彼が横切って見に来るのをご覧になった。神は柴の中から彼を呼び、「モーセ、モーセ。」と仰せられた。彼は「はい。ここにおります。」と答えた。**」、この後モーセはご存じのようにエジプトへと遣わされて行きます。イザヤ書6書にはイザヤのことが記されています。6：8「**私は、「だれを遣わそう。だれが、われわれのために行くだろう。」と仰せられる主の声を聞いたので、言った。「ここに、私がおります。私を遣わしてください。」**」。旧約の時代も新約の時代も、今の時代もそうです。神はある人々を特別な働きのために召されます。その人たちは召されたときに、神に対して従順に従って行ったのです。パウロは「私は神からこの使徒という特別な働きに選ばれ、私はその働きを受け入れてその働き人として仕えて行く」と言い、神は大いにその働きにおいて用いられたのです。そのように主によって召されている人、特別な働きのために召されている人、牧師や宣教師たち、彼らはその召しに対して従順に従い、神は彼らを大いにお用いになるのです。

3. 神の福音のために選び分けられた

パウロはここで自分の任務を明らかにしています。「**選び分けられ**」ということばを使っています。これは「分離する、区別する、聖別する」という意味をもつことばです。新約聖書においてはこのことばは「働きのために神によって選び分けられる」という意味です。聖い目的のために選び分けられるのです。使徒13：2を見るとパウロとバルナバが選ばれます。「**彼らが主を礼拝し、断食をしていると、聖霊が、「バルナバとサウロをわたしのために聖別して、わたしが召した任務につかせなさい。」と言われた。**」とあります。聖別して彼らを特別な任務につかせるというのです。パウロ自身はガラテヤ1：15で自分のことについてこのように述べています。「**けれども、生まれたときから私を選び分け、恵みをもって召してくださった方が、**」と、私は人によってではなく神によって選び分けられた者であると言います。何のために選び分けられたのか、そのことも記されています。16節「**異邦人の間に御子を宣べ伝えさせるために、御子を私のうちに啓示することをよしとされたとき、**」、神の福音のために、福音宣教のために、このすばらしい救いのメッセージを伝えるためにと、そのように述べているのです。それが彼に与えられた働きであり任務であると。よく見ると、パウロはローマ1：1で「福音のために」と言わずに「**神の福音のために**」と説明しそのことを明確にしています。というのは、「福音」ということばは、この当時、ローマにおいてよく用いられたのです。このことばの意味はご存じのように「良き知らせ」です。ローマ帝国においてこの「福音」ということばは皇帝崇拝と関係していました。皇帝に関わること、皇帝にまつわる良い知らせ、良い出来事を人々に知らせるとき、このように「福音」と呼んですばらしい知らせを人々に布告したのです。皇帝にまつわる様々なできごと、たとえば、後継者が生まれたとか、皇帝の即位のときとか、そのようなときに「福音」と呼んで人々にそのできごとを知らせたのです。このことばがこのように使われていたゆえに、パウロはその皇帝に関することと自分が伝えようとする神から授かったメッセージとは根底的に違うのだということを明らかにしたのです。パウロはこの「良き知らせ」は人間の知らせではない、神に関するものだ、神が伝えるメッセージ、神が伝えなさいと与えられた大切なメッセージである、だから、「**神の福音**」、神に属する福音だと強調するのです。まさに、このことによって人間が考え出した教えと区別しているのです。なぜなら、この「福音のメッセージ」など私たちが考えることはできません。世界を造る前から神は私たちを選んでくださった、救い主をこの地上に送ってください、救い主を私たちの身代わりに罰して、その救い主を信じる者に罪の赦しを与えてくださったのです。パウロがIコリント2：9で教える通りです。「**まさしく、聖書に書いてあるとおりです。「目が見たことのないもの、耳が聞いたことのないもの、そして、人の心に思い浮かんだことのないもの。神を愛する者のために、神の備えてくださったものは、みなそうである。」**」、神のなさることは私たちには分からないのです。私たちがこの頭で考えるとき、なぜ？と思うことがあふれています。神のなさることは私たちの理解をはるかに越えています。

もう一つ見ておきたいことは、「**神の福音のために選び分けられ**」とこれは先ほどから見ているように福音宣教のことですが、パウロが敢えて「**神の福音を宣べ伝えるために**」とこのように述べていないのは

神の福音を宣べ伝えるためには、ことばで伝えることはもちろんですが、私たちの生き方でも伝えるからです。私たちはこのすばらしい神のことを私たちのことばによって伝えますが、生き方によっても伝えるのです。本当にあなたに神からの希望が与えられているなら、その希望をもってあなたが生きることによってそれが真実なものであることが人々に伝わるのです。神があなたの重荷を取り去ってくださると喜びをもって生きているなら、そのことを明らかにして行くことです。悩みがあなたの心を支配しようとするとき、神の方を向いて神にその重荷をゆだねることです。思い煩いをいっさい主にゆだねなさい、主が心配してくださると、私たちには心配してくださる方がいるのです。神が助けてくれるのです。だから、私たちはこのすばらしい神の救いのメッセージをことばで伝えるのですが、救われた者として神の前を正しく生きるなら、間違いなく、あなたを通してこの救いのメッセージが伝わって行くのです。パウロはこの福音のために召された、彼ははっきりとこの任務を神からいただいた、この目的のために私は生かされていると、そのことを知っていたのです。ですから、パウロは「16 というのは、私が福音を宣べ伝えても、それは私の誇りにはなりません。そのことは、私がどうしても、しなければならぬことだからです。もし福音を宣べ伝えなかったら、私はわざわざに会います。17 もし私がこれを自発的にしているのなら、報いがありましょう。しかし、強いられたにしても、私には務めがゆだねられているのです。」（Iコリント9：16-17）と言います。彼は自分に与えられた任務を知っていたのです。何のために救われて何のために生かされているのかを知っていたのです。パウロは私はこの地上にあって、毎日の生活にあって、このキリストのすばらしい救いを人々に伝えて行く、そのために救われた、そのために生かされていると言うのです。パウロはすごいなあとそのように思うならあなたは大切な主の命令を忘れていきます。「全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい。」（マルコ16：15）とありますが、これはだれに対する神の命令でしょうか？あなたに対してです。パウロにだけその任務が与えられたわけではありません。私たち救われた一人ひとりと同じように出て行ってこのキリストの福音を伝えるという大切な使命が神から与えられているのです。私たちが考えるべきことは、その使命に対して私たちはパウロと同じような思いをもって励んでいるかどうかです。パウロは言います。「神の福音のために選り分けられ」と。そのためだけ…と。マルティン・ルターはこのことばについてこのように言っています。「神の福音のために選り分けられたということは、他のものとの関わりから引き離されて、福音を教えるというこのただ一つの務めのためだけに私は献げられ、向けられ、聖別されているということである」と。ルターもそうしたのです。キリストの福音を伝える、そのためだけに彼らは専心したのです。その目的のために神は私をこのように救いへと導き、私を生かしてくださっていると。

私たちはこのローマ1：1から、パウロ自身の自己紹介を学んできました。私たちはこの自己紹介を見ると、まさに、真のキリスト者とはどういう人なのかを見ることができます。

◎真のキリスト者とは？

(1) キリストの奴隷である

キリストにすべてをささげて主のためだけに生きることを決心した者です。だから、神を喜ばせようとみこころに従順に従って行こうとしているのです。あなたはそういう人ですか？パウロは私は救われた、そして、私はこういう人に変えられた、キリストの奴隷だと言います。

(2) 神に用いられることを願う

キリスト者は主によって働き、務めが与えられています。だから、主のために一生懸命仕えようとし、どのような働きでしょうか？神が示してくださることに喜んで積極的に加わって働きをしようとし、パウロは教会のお客さんではなかった、働き人でした。それが信仰者なのです。神があなたを救ってくださって、あなたを生まれ変わらせてくださったなら、主に仕えたいという願いをもちます。その思いがあなたを押し出して行くのです。主よ、どうぞ私を使ってくださいと。

(3) 福音のメッセージを人々に語り続けようとする

福音を信じて救われたことを喜ぶとともに、愛する者たちが同じようにこの救いにあずかるように、ことばをもって生き方をもってキリストを証するのです。

あなたはどのように生きておられますか？キリストのしもべとして従い、神から与えられた務めに従順に従い、キリストの福音を伝え続けている、そのために生きていると、パウロが言ったことは事実です。彼の生き様はこのみことばが私たちに教えてくれます。まさに、このようにキリストの奴隷として生き、神から与えられた務めを忠実に果たし、キリストの福音を宣べ伝え続けたのです。彼はこのように自己紹介をした通りに生きたのです。あなたはどのようにご自分を紹介されますか？働き人とされたこと、そして、この福音を伝える務めにあずかったこと、それらを実践しておられますか？信仰者としてどのように歩んでおられますか？いや、これからどのように歩もうとしておられますか？パウロはこのように私たちを励ましてくれました。そして、神はあなたを強めてくださるのです。このすばらしい福音のメッセージがこの地上にあってより多くの人々に伝わって行くために。